



ももりんMIMだより

小諸養護学校
センター的機能係
平成30年11月1日
No. 8

クラスレポートで赤と黄色がなかなか減らないなあと感じているかもしれません。でも、「前回との比較欄」を見てください。多くのお子さんは着実に得点が上がってきています。個人レポートで見れば一目瞭然！ 全国の平均点も上がってきているので、クラスレポートの色はなかなか変わらないかもしれませんが、一人ひとりのお子さんのこれからの伸びがさらに続くように日々の学習を大切にしていきたいですね。

2ndステージ指導の後半になります

2学期も後半になりました。2ndステージ指導はすすんでいるでしょうか。

2ndステージ指導の基本は学級全体での指導になります。クラス全体での学習を行いながら、2nd、3rdのお子さんが分かるように同じ場・時間の中で指導を行います。まずは全体で授業や宿題で少しでも言葉の学習に取り組むことが大切になってきます。

その中で、2ndステージ指導をさらに効果的に行うには、MIM-PMよみかためいじんの実施回数に応じて、クラスレポートや個別の配慮計画を参考

ももりん小学校1年1組			テスト①						テスト②							
	名前	総合点	テスト①	テスト②	清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音
要配慮	ゆうと	12	7	5												
要配慮	あきと	11	6	5												
要配慮	れん	8	4	4												
要配慮	あおい	10	5	5												
要配慮	あらた	10	5	5												
要配慮	やまと	11	5	6												
要配慮	あさひ	11	6	5												
要配慮	ゆう	10	5	5												
要配慮	えいた	17	7	10												
要配慮	ふうた	4	2	2												
要配慮	ふうま	12	3	9												
要配慮	そう	11	7	4												
要配慮	かく	7	4	3												
要配慮	ひろと	9	5	4												
要配慮	いつき	7	4	3												
要配慮	あさひ	6	3	3												
経過観察	ゆうま	22	9	13												
経過観察	そう	17	9	8												
経過観察	ひなた	14	8	6												

経過観察になっているお子さんも丁寧に指導する必要があります。

にするとよいようです。個別の配慮計画を見ると、クラスレポートでは分からない、特殊音節のこういった部分ができていないのか分かります。全体の指導を行っているときに、このお子さんは長音が苦手なんだな、子のお子さんは拗音が苦手なんだなと分かって指導することで、より効果的な指導になります。また、個別の配慮計画には1stのお子さんはのってきませんが、経過観察と書かれたお子さんがいます。このお子さんは、アセスメントの得点は1stステージですが、特殊音節の要素によっては、課題があるというお子さんになります。2ndステージ指導の時に、1stだから大丈夫とせずに、その特殊音節の要素については2nd、3rdのお子さんと同じように丁寧な指導が必要です。個別の配慮計画に合わせた学習の進め方の具体については、各校へ伺っているセンター的機能係とご相談ください。



語彙を増やすには？

先生方と今後の指導について相談をさせていただいているときに話題に上がるのが、「語彙がなかなか増えてこない」「テスト②の得点が伸び悩んでいる」という悩みです。

テスト②のような問題に力を入れて取り組んだ結果、テスト②の得点が上がってきているというクラスもあるので、そういう方法も一つかと思えます。

テスト①の得点が正しいルールが身につくことによってすぐに上がってくるのに対して、テスト②の得点はスラスラ読むための語彙数が増えてこなくてはならないため、なかなか上がらないといわれています。では、語彙を増やすためにはどうしたらよいのでしょうか。

M I M—PMのアセスメントの問題を使った「プリントじゃんじゃん」も、語に触れるという意味では、アセスメントの時には出会わなかった語に出会うことができます。

知らない語に出会った時にそのままにしないということも有効です。教室にホワイトボードやミニ黒板を用意しておいて、その時すぐ解決できなかった語については、あとでなるべく写真や絵を使って説明をするようにすると、語彙が増えていきます。その時に、国語辞典を使う姿を先生が見せるのもよいようです。「そんな便利な道具があるなら使ってみよう！」と思うようです。ある児童は2年の6月から家庭で辞書を使い始めて、現在まで1年半の間、付箋を使った辞書引きをしてきて、400語弱の意味を調べました。そうやって自分で語彙を増やしていくこともできます。

また、姉妹学級での活動で言葉遊びをすることも、大人と一緒にしりとりをするときの効果と同じように、自分たちの知らない語に出会う機会として生かすことができます。

まだまだいろいろな工夫があるかと思えます。こんな風にやったらよかったといったことがありましたら、学校に伺っているセンター的機能係にお伝えいただけるとありがたいです。みなさんにお伝えして還元したいと思います。

来年度に向けて・・・準備をお願いします

今、まだまだ成果がなかなか上がっていないのに、来年の話？と思われる方もいるかもしれません。しかし、今年M I Mに取り組んだ学校では、ぜひ来年度もM I Mに取り組んでいただきたいと考えています。そこで、もしまだM I Mのパッケージがない学校でしたら、次年度の予算にぜひ計上していただきたいです。もうすでに、今年度M I Mがなかった複数の学校で来年はM I Mを購入すると決めているところもあります。パッケージのある学校はできれば、「多層指導モデルM I Mアセスメントと連動した読みの指導」という本を購入していただければと思います。そして、今は比較的個人のレベルでM I Mに取り組んでいただいている学級が多いかと思いますが、学校として1年生2年生ではM I Mを実施するように計画していただけるといいなあと考えています。他地区では1年生以外の先生にM I M係をやっていただいて、サポートをいただいているところもあるそうです。佐久地区の学校でも、1年生の担任を特別支援学級の担任が教材の準備などのサポートをしている学校もあります。その学校は1年生が1クラスなので、担任の先生も一緒に取り組む先生がいて心強いようです。そういった校内組織のところでも、M I Mが実施しやすい状況をつくっていただくと1年の先生方もM I Mが実施しやすくなるのではないかと考えています。

